論文の和文要旨	
論文題目	定義を巡る闘争、界群、および資本の流れ —独立後のモロッコとチュニジアの国家の比較社会生成分析—
氏名	Khalil Dahbi カリール・ダフビー

本博士論文には二つの主目的がある。第一の目的は、権威主義国家の生成と変容の研究への新たなアプローチを導入することを試みることである。第二の目的は、モロッコとチュニジアの権威主義国家の社会生成（sociogenesis）のよりよい記述を提示することである。これらの目的のため、本研究では独立後のモロッコとチュニジアの事例を、より政治的意味合いが濃い最近の分析範疇を用いることで起こる物象化の陥穽を回避しながら、ブルデューの政治界（political field）という概念を分析上の入り口と位置づけ、それぞれの国における政治なるものの生成と発展過程を分析する。同時に、本論文では、物質的および象徴的レベルでの分析を、それらの間の相互構成的やりとりを加味して、分析とそれが生み出す説明的叙述の範囲に含めることを試みた。

そのため本論文では、「権威主義政治システム」や特定の生成後の政治体制の類型を起点に、その体制の「材料」を遡及的に検証するのではなく、それらを形成するに至った様々な要因の相互作用に着目することを試みる。具体的には、ブルデューの意味合いにおける物理的、象徴的暴力の貯蔵庫としての国家を存在界へもたらし、総体的な実体として永続化させる諸過程の社会生成的追跡という方法で行う。また、多様な諸過程と（社会的空間と相対的に自立的な諸界を通して構造的に形づけられた個々の軌跡により制約を受けている）主体間の変動し続ける関係性の複雑な相互作用の産物としての追跡対象の状況依存的で生成的な性格を強調する。それぞれに規則と論理を併せ持ちこれらの界（fields）は、物質的かつ象徴的闘争の空間として捉えられ、より上位の「権力界」（field

of power）の内部に位置づけられる。闘争の過程、さらに支配の源の再生産を確保する試みは、国家とその活動（performance）を構築し変容させる諸界の多様な群れ（assemblages）および界間の諸関係の生成を確実にする。

論文の構成としては、まず先行研究を検証し、理論的枠組みを既存の理論的論争を踏まえながら導入した上で、本論文は実証的に追跡かつ強調された関連する説明上の諸過程を含め、主に時系列に沿って進んでいく。次にそれらの過程の再発、類似、また差異を分析、比較を行った。本論文はその後、三部に分けられる。第一部は、モロッコとチュニジアにおける政治界の生成の比較分析である。第二部ではモロッコに分析の焦点を当て、同国における政治界の展開と国家を、変革期（*alternance*）に至るまで追跡する。各部には記述、実証を主とした章と、それに続く分析のための章を設けている。最後に、本研究で扱った事例が、権威主義国家とその政治に関する研究に対して、どのような理論的示唆や一般化が可能となりうるかについて考察し、結論とする。